

令和4年度事業報告(美術館)

自 令和4年4月 1日

至 令和5年3月31日

公益目的事業2(展覧会事業)

1. 「北斎展」の開催(52日間 大英博物館・朝日新聞社と共催)

ア. 名称 「大英博物館 北斎一国内の肉筆画の名品とともに」

イ. 会期 令和4年4月16日(土)～令和4年6月12日(日)

ウ. 概要 江戸時代後期を代表する浮世絵師であり、世界で最も著名な日本の芸術家の一人である葛飾北斎。大英博物館には、複数のコレクターから入手した北斎の優品が多数収蔵されており、同館が所蔵する北斎作品を中心に国内の肉筆画の名品とともに、北斎の画業の変遷を追った本展は、大きな反響と話題を呼び、2020年のコロナ渦以降では最多の来館者数を記録する展覧会となった。

エ. 展示 ・富嶽三十六景 神奈川沖浪裏 天保元～4年(1830-33)頃 大英博物館蔵
・為朝図 一幅 江戸時代 文化8年(1811)大英博物館蔵
・弘法大師修法図 一幅 江戸時代 弘化年間(1844-47) 西新井大師總持寺蔵

2. 「歌枕展」の開催(54日間 朝日新聞社と共催)

ア. 名称 「歌枕—あなたの知らないこころの風景—」

イ. 会期 令和4年6月29日(水)～令和4年8月28日(日)

ウ. 概要 古来、日本人は自らの思いを美しい風景に託し和歌に表してきた。それはやがて特定の土地に決まった情緒が結びつき、実際の風景を知らずともその思いを共有できる歌枕となった。この歌枕という国文学史におけるテーマを美術史の中において展覧会を通じて訴求するという大変難解な企画にチャレンジした本展は美術ファンのみならず、マスコミからの注目度も集め、改めて当館の認知度とその企画力に対する評価を大いに高めた。

エ. 展示 ・重要文化財 小倉山蒔絵硯箱 一合 室町時代 15世紀 サントリー美術館蔵
・重要文化財 寸松庵色紙「ちはやふる」 伝紀貫之 一幅 平安時代 11世紀 京都国立博物館蔵
・吉野龍田図 六曲一双 江戸時代 17世紀 根津美術館蔵

3. 「大阪市立美術館名品展」の開催(54日間 毎日新聞社と共催)

ア. 名称 「美をつくし—大阪市立美術館コレクション」

イ. 会期 令和4年9月14日(水)～令和4年11月13日(日)

ウ. 概要 昭和11年(1936)に開館した大阪市立美術館は、日本・中国の絵画や書蹟、彫刻、工芸など幅広いコレクションを有しその数は約8,500件を数える。令和4年(2022)秋から始まる大規模改修工事を機に、同館が誇る東洋美術の精華を一堂に展示した本展

では、1つ1つの作品のもつ魅力をさらに伝えるべく当館ならではの展示方法やキャプションへの工夫等を施すことで、来館者にコレクションの価値をお届け出来た。

- エ. 展示
- ・重要文化財 四季花鳥図屏風 狩野宗秀 六曲一双 桃山時代 16世紀
 - ・重要文化財 潮干狩図 葛飾北斎 一幅 江戸時代 19世紀
 - ・晩秋 上村松園 一面 昭和18年(1943)
- (上記いずれも大阪市立美術館蔵)

4. 「智積院展」の開催(45日間 総本山智積院・朝日新聞社と共催)

- ア. 名称 「京都・智積院の名宝」
- イ. 会期 令和4年11月30日(水)～令和5年1月22日(日)
- ウ. 概要 京都・東山の真言宗智山派の総本山智積院には、桃山時代の巨匠・長谷川等伯(1539～1610)率いる一門によって、豊臣秀吉の子鶴松の菩提寺である祥雲寺に描かれた金碧障壁画群が大切に守られてきた。その誰もが知る国宝「楓図」「桜図」「松に秋草図」を寺外で初めて同時公開するとともに、智積院に伝わる仏教美術をはじめとした名宝も併せて展示した本展は、美術ファンのみならず一般の人々にとっても大変貴重な機会となりコロナ渦では北斎展につぐ来館者数を記録する等、人気の高い展覧会となった。

- エ. 展示
- ・国宝 楓図襖 長谷川等伯 四面 桃山時代 16世紀
 - ・国宝 桜図襖 長谷川久蔵 五面 桃山時代 16世紀
 - ・国宝 松に秋草図屏風 長谷川等伯 二曲一双 桃山時代 16世紀
- (上記いずれも京都・智積院蔵)

5. 「木米展」の開催(42日間 朝日新聞社と共催)

- ア. 名称 「没後190年 木米」
- イ. 会期 令和5年2月8日(水)～令和5年3月26日(日)
- ウ. 概要 江戸時代後期の京都を代表する陶工・文人画家である青木木米(1767-1833)の、没後190年の節目を記念し開催。幅広く活発な人的交流のなかで生まれた絵画・陶芸の名品を通じて、自由闊達な精神と制作への情熱を持ち続けた木米という人物像を浮き彫りにしつつ、彼が創りだした多くの名品を広く各方面から借用し展示に結び付けた本展は、美術業界から高い評価を得るとともに、コアな美術ファンをも唸らせる質の高い展覧会となった。

- エ. 展示
- ・「三彩鉢」春日山窯 一口文化4～5年(1807～08)サントリー美術館蔵
 - ・重要文化財「染付龍濤文提重」一具 江戸時代 19世紀 東京国立博物館蔵
 - ・重要文化財「兎道朝激図」一幅 江戸時代 19世紀 個人蔵

6. 「サントリー美術館名品展(館外展)」の開催

(58日間 サントリー美術館名品展実行委員会へ協力)

- ア. 名称 「秋田朝日放送開局 30 周年記念特別展 サントリー美術館名品展
—佐竹本・三十六歌仙絵から円山応挙、エミール・ガレまで」
- イ. 会期 令和 4 年 7 月 16 日(土)～令和 4 年 9 月 11 日(日)
- ウ. 概要 秋田朝日放送の開局 30 周年を記念し秋田県立近代美術館にて開催。館外での名品展として 2014 年以來、約 8 年ぶりの開催となった本展では、重要文化財「佐竹本・三十六歌仙絵 源順」をはじめ絵画、工芸、ガラス等、当館を代表する作品を展示。秋田県内で名品を鑑賞できる貴重な機会となった。特に重要文化財「佐竹本・三十六歌仙絵 源順」は、秋田に縁が深いこともあり大変な評判を呼んだ。
- エ. 会場 秋田県立近代美術館
- オ. 展示 ・重要文化財「佐竹本・三十六歌仙絵 源順」 一幅 鎌倉時代 13 世紀
・重要文化財「四季花鳥図屏風」 六曲一双 室町時代 15 世紀
・切子藍色被船形鉢 江戸後期 19 世紀中頃
(上記いずれもサントリー美術館蔵)

収益事業

1. 物販事業

所蔵品をモチーフとした商品開発、展覧会内容・季節の催事を取り入れた店頭ディスプレイにより、お客様に繰り返し足を運んでいただける魅力的なミュージアムショップを目指した。

2. 飲食事業

「加賀麩 不室屋」の老舗ならではの信頼感とブランド力を活かしつつ、現代の感性を取り入れたメニューを提供し、新規顧客の拡大とリピーターの増加を目指した。

3. 貸室事業

「茶室」の貸出を通じて、収益を得るだけでなく、日本の伝統文化の啓蒙という当館ならではの価値訴求を心掛けた。

以 上